

- A. 日時 2013年3月14日(木) 14時45分～17:00  
B. 場所 京都大学清風荘  
C. 出席 主査：羽山広文、幹事：柳井崇、郡公子、委員：(赤司泰義)、(秋元孝之)、石川幸雄、石野久彌、(猪岡達夫)、宇田川光弘、(岡建雄)、川瀬貴晴、古賀誉章、小林陽一、(坂上恭助)、(佐々木邦治)、(佐野武仁)、(清水昭浩)、(高井啓明)、(高草智)、(千葉隆文)、仲野章生、(中野淳太)、(二宮秀典)、(野部達夫)、(本間睦朗)、吉田治典  
オブザーバー：堀川晋、水出喜太郎 (( )付きは欠席、敬称略・順不同)

D. 配付資料

- 資料 No.6-1 2012年度第6回建築設備運営委員会議事次第  
資料 No.6-2 2012年度第5回建築設備運営委員会議事録(案)  
資料 No.6-3-1 環境設備に関する学会基準(AIJES)における性能レベル検討小委員会2013年度名簿(岡委員)  
資料 No.6-3-2 ヒューマンファクターに配慮した環境構築小委員会2013年度名簿(野部委員)  
資料 No.6-3-3 建築気象データ小委員会2013年度名簿(二宮委員)  
資料 No.6-3-4 次世代排水システム小委員会第5回議事録(案)(坂上委員)  
資料 No.6-3-5 第6回環境建築設計法小委員会議事録(案)(羽山主査)  
資料 No.6-3-6 ガラス建築快適環境WG活動成果報告・自己評価(佐々木委員)  
資料 No.6-4 2012年度第4回環境工学委員会議題(羽山主査)  
資料 No.6-5 OSの応募状況と採択結果  
資料 No.6-6 第9回建築設備シンポジウム企画案(郡幹事)  
資料 No.6-7 建築設備運営委員会2013年度名簿(羽山主査)

E. 建築視察：

吉田委員に企画頂き、重要文化財に指定された和風近代建築の清風荘とその庭園を視察した。

F. 議事：

1. 前回議事録が確認され、承認された(資料 No.6-2)。
2. 各小委員会、WGの活動状況が報告され確認された。
  - 1) 環境設備に関する学会基準(AIJES)における性能レベル検討小委員会(資料 No.6-3-1、代理説明：石川委員)
    - ・2/22に小委員会が開かれた。設計性能の項目と具体的な数値を示した性能レベルを検討している。総合性能の考え方を検討中である。来年度はシミュレーションによる検討を行う。
    - ・総合性能に意匠性が含まれるかどうか、CASBEEとの特徴の違いについて質疑があった。
  - 2) 環境選択型空調設計小委員会(資料 No.5-3-2)
    - ・来年度は、「ヒューマンファクターに配慮した環境構築小委員会」(主査：横山計三先生)を設置する。
  - 3) 気象データ小委員会(資料 No.5-3-3)
    - ・来年度は、「建築気象データ小委員会」(主査：松本真一先生)を設置する。
  - 4) 次世代排水システム小委員会(資料 No.5-3-4、代理説明：古賀委員)
    - ・来年度は、佐野委員、門脇委員が退任し、山本氏、松下氏、摺木氏が新任として加わる。
    - ・機械排水WGで、圧送式、真空式排水システムの設計ガイドライン素案を作成した。性能規定を目指していて、具体的な数値は条文ではなく解説に入れる。サイホン排水WGでも、性能規定の設計ガイドラインを作成中である。小委員会の設置期間4年を待たずに完成させることを目標としている。
    - ・数値による規定を控える理由について質疑があった。
  - 5) 環境建築設計法小委員会(資料 No.6-3-5、羽山主査)
    - ・3/7開催の小委員会では、第一三共の研修所の見学を行った。委員会では、環境工学本委員会の報告、OS論文応募、設備シンポ企画案の議論、プログラム編成会議の確認などがされた。

- ・来年度は、環境建築システム小委員会（主査：長井達夫先生）が設置される。

#### 6) ガラス建築快適環境 WG（資料 No.5-3-6）

- ・今年度の活動成果報告・自己評価の書類を確認した。

#### 3. 環境工学本委員会の報告がされた（資料 No.6-4、羽山主査）。

- ・技術部門設計競技の課題として、農村計画分野から提案されたものに決定したことが報告された。本委員会から提案した「2050年にむけた新しい環境建築とは」という課題に対しては、条件設定をもっと詳細にするとよいというコメントがあった。
- ・若手奨励特別委員会のテーマが3つ選出され、環境工学部門のテーマも1つ選ばれた。
- ・学会賞論文部会選考委員候補として高草木先生、奨励賞選考委員会委員候補として羽山先生が選出された。論文集委員会委員の推薦依頼に対して、本委員会から中山哲士先生を推薦した。
- ・来年度大会研究協議会は、北海道支部の企画が認められた。「異分野からの視点を活かす建築環境工学」というテーマで、講演・討議がされる。研究懇談会は、「U-40が語る環境工学研究の最前線と分野連携」というテーマで、11分野の若手研究者が講演する。設備分野からは、森太郎先生が講演する。
- ・来年度予算は会員減のため全体で11%減少した。設備は、活発な活動が評価され昨年並みに留まった。
- ・来年度大会のプログラム編成会議の日程は4/24(水)である。多数の出席が必要なため、設備部門の開催案内を羽山主査から出して頂くことになった。
- ・次期環境工学委員長に田辺新一先生、幹事に羽山先生、村上公也先生、中野淳太先生が決まった。

#### 4. 来年度大会 OS の応募論文の採択結果が報告された。（資料 No.6-5、羽山主査）。

- ・3件の応募があった。環境建築設計法小委員会の委員に、追加2編の応募をお願いして概要を送って頂いたが、期限厳守を理由に認められなかった。
- ・来年度から提出期限前に、応募状況を事務局に確認することにした。

#### 5. 第9回建築設備シンポジウムの企画内容について審議された。

##### 1) 企画内容について説明された（資料 No.6-6、郡幹事）。

- ・前回の設備運営委員会、環境建築設計法小委員会での審議結果をもとに具体化を進めた。全体のテーマは「環境建築の新たな展開に向けて」、第1部は「話題の環境建築に学ぶ」、第2部は「新時代を拓く技術を考える」というテーマ案である。第1部、第2部の最初に、それぞれ野原文男氏、吉田治典先生に30分の講演をお願いする。第1部は、鹿島技研、スーパーコンピュータ「京」施設をはじめ7物件、第2部は、赤司泰義先生、秋元孝之先生、佐土原聡先生をはじめ6名の講演候補が考えられる。

##### 2) 企画内容について討議された。

- ・第1部のテーマは、環境建築を「あばく」、「議論する」などとする案も考えられる。おもしろいが、講演しにくい恐れがある。講演候補として、滋賀県立大学（安井）、大正製薬大阪支店（竹中）、スカイツリー（日建、意匠設計）が追加された。
- ・第2部について、災害対策が重要になったことから、余裕、冗長性に関する講演があるとよい、最新技術が新時代を拓くことにどう結びつくか聴きたいなどの意見が出された。講演候補として、猪岡達夫先生（余裕設計）、近本智行先生（ヒューマンファクターと設備）、山中俊夫先生（高層ビルの自然換気）、中尾正喜先生（地区エネルギー）、大塚雅之先生（衛生設備）が追加された。
- ・総合討論を減らして講演を増やす、講演に対する質疑時間を独立して設けることも考えられる。
- ・ガラス建築快適環境 WG より、最新ガラス材料に関する講演のご提案を頂いたことが報告された。

#### 7. 次回委員会

環境工学本委員会の次回日程が決まり次第決める。可能であれば本委員会と同日開催とする。

（文責：郡）